

【原著論文】

ゲシュタルト療法における逆転移の活用について

中尾文彦

Using Counter-transference in Gestalt Therapy

Fumihiko NAKAO

【要約】

ゲシュタルト療法は“今、ここ”での気づきを重視する、現象学や実存主義哲学に根ざした心理療法である。また、ゲシュタルト療法は精神分析と袂を別つ形で生まれ、発展してきた。しかし近年欧米ではゲシュタルト療法の理論構築や臨床実践に精神分析の知見を取り入れる動きがある。本論文は、医療機関で行われた個人心理療法、およびワークショップ形式で行われた集団療法の一場面、の2事例を用い、ゲシュタルト療法を実践する際に精神分析の知見が役に立つことを考察したものである。なお、本論文では精神分析の知見の中で逆転移の活用を取り上げた。逆転移の性質を吟味することに関する精神分析の知見はゲシュタルト療法家の情緒体験をセラピーに活かす際の試金石となることが、また逆転移の解釈はクライアントの内層や中間層への気づきを促す一技法と位置づけることが可能なことが示唆された。